

刑事施設及び保護観察所の連携を強化した
性犯罪者に対する処遇プログラムの改訂について（令和4年度～）

令和4年4月 法務省矯正局・保護局

目次

● 共通事項

主な改訂内容	P. 1
受講者が作成する再発防止計画に係る統一様式の作成	P. 2

● 刑事施設におけるプログラム

刑事施設における特別改善指導「性犯罪再犯防止指導」の概要	P. 3
刑事施設における特別改善指導「性犯罪再犯防止指導」の本科プログラム	P. 4
刑事施設における特別改善指導「性犯罪再犯防止指導」の改訂ポイント	P. 5

● 保護観察所におけるプログラム

性犯罪再犯防止プログラム	P. 6
コアプログラム	P. 7
メンテナンスプログラム	P. 8
セルフチェックシート	P. 9

主な改訂内容

認知行動療法等の共通の理論に基づいて実施している刑事施設及び保護観察所におけるプログラムについて、その連携をより一層深め、効果的なプログラムとなるよう主に以下のとおり改訂する。

なお、今後もプログラムについては、再犯防止により一層寄与するものとなるよう不断の検証を行い、必要に応じて改訂を検討する。

共通事項：受講者が作成する再発防止計画に係る統一様式の作成

これまで、刑事施設と保護観察所のプログラムでは、異なる様式で「再発防止計画（再び性犯罪をしないための具体的な方法をまとめた受講者が作成する計画で、プログラムの中核をなすもの）」を作成していたが、その様式をサイクル・モデルに統一→これにより、個々の対象者ごとに同一の再発防止計画を使用することとなり、これまで以上に刑事施設から社会内への一貫性のある効果的な指導を行うことが可能に
→統一のサイクル・モデルを採用することにより、性犯罪を反復する者に対する指導がより実施しやすいものに

刑事施設関係：

- ・受講者の強み等を活用したプログラム改訂
受講者が今後達成したいと考える目標や受講者の強みに焦点を当て、前向きな意欲をプログラムに活用
- ・指導効果が上がりにくい特定の対象者群への対応を含めたプログラム改訂
処遇プログラムの効果検証において、再犯防止効果に統計的な裏付けが得られなかった特定の課題性（習慣的性行動、衝動性の高さ、性犯罪を促進する性的ファンタジー）を有する者にも対応したプログラムに改訂

保護観察所関係：

- ・プログラム全体を通じて、受講者の動機付けや強み等により着目したものに改訂
- ・小児に対する性加害を行った者や痴漢が嗜癖化している者など、共通の指導のみでは対応困難な者に対する指導の充実化
- ・コアプログラム終了後のリスクの管理と効果的な介入を行うため、事件から離れた生活を送るための取組の点検シート（セルフチェックシート）を作成

受講者が作成する再発防止計画（セルフ・マネージメント・プラン）に係る統一様式の作成

認知行動療法※等の理論に基づき実施しているプログラムでは、プログラムで学んだこと等を通して、受講者一人一人が自分の事件の背景にある再犯リスク要因を特定し、再び性犯罪をしないための具体的な対処方法を「再発防止計画（セルフ・マネージメント・プラン）」にまとめており、今般、同様式を下図のとおりサイクル・モデルとして統一するもの。サイクル・モデルは、日常から事件の流れを円環的に捉えて事件を分析するものであり、これを統一化することにより、性犯罪を反復する者に対する指導がより実施しやすくなるとともに、刑事施設と保護観察所においてより一貫性のある効果的な指導を行うことが可能になる。

再発防止計画の内容

再犯をしないという目標だけではなく、これからの人生で、どんな自分になりたいかを考えて記載します。

実行を直前で食い止めるためのコーピング（対処方法）を記載します。

困ったときにSOSを出すことができたり、相談したりできる人や機関の情報を記載します。

なりたい自分になるための具体的な取組を記載します。

「日常生活」から「事件（実行）」に至る流れ（サイクル）の中で、性加害の可能性を高める状況やサイクルを進めるリスク要因を段階ごとに記載します。

各段階において、サイクルから抜け出すためのコーピング（対処方法）を記載します。

再発防止計画（セルフ・マネージメント・プラン）

なりたい自分

なりたい自分になるためにすること

緊急時のコーピング

コーピング

実行（加害）

ストップ

危険な状況ひきがね

ためこみ

日常

コーピング

コーピング

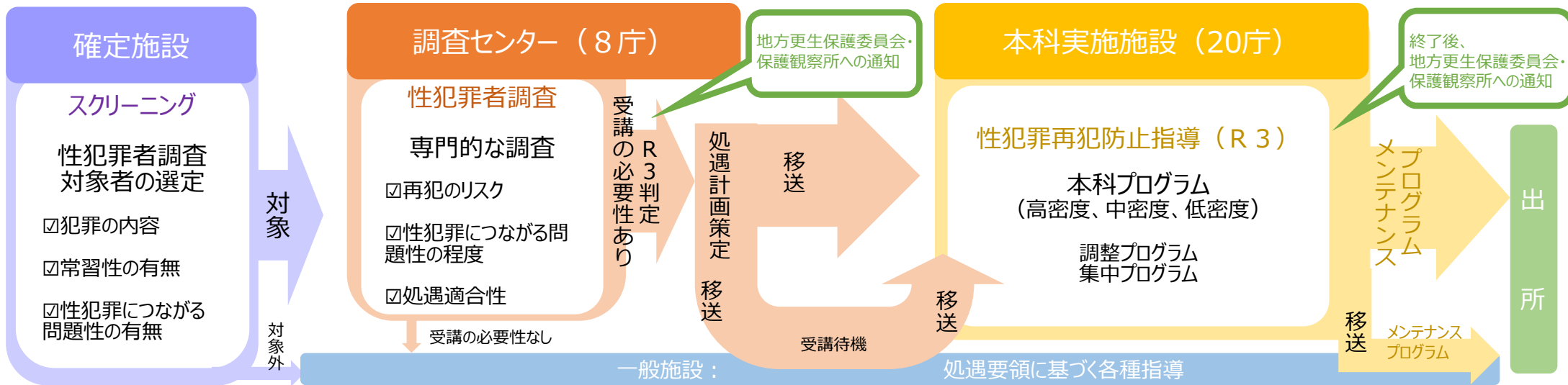
社会的サポート（支えになる人・機関）

① 名前（組織名）：
連絡先・場所など：

② 名前（組織名）：
連絡先・場所など：

《認知行動療法》
問題行動（性犯罪）の背景にある自らの認知（物事の考え方、とらえ方）の歪みに気付かせ、これを変化させること等によって、問題行動を改善させようとする方法

刑事施設における特別改善指導「性犯罪再犯防止指導」の概要



目標

- 強制わいせつ、強制的性交等その他これに類する犯罪又は自己の性的好奇心を満たす目的をもって人の生命若しくは身体を害する犯罪につながる自己の問題性を認識させ、その改善を図るとともに、再犯しないための具体的な方法を習得させる。

対象者

- 性犯罪の要因となる認知の偏り、自己統制力の不足等がある者
- ※新たに刑が確定した受刑者に対するスクリーニングと、調査センターにおける性犯罪者調査の2段階のアセスメントを実施
- ※性犯罪の再犯リスクの高い受刑者を特定し、全国の本科実施施設において指導を実施（令和2年度の受講開始人員は、424人）

指導者

- 刑事施設の職員（法務教官、法務技官、刑務官）
- 処遇カウンセラー（性犯担当。認知行動療法等の技法に通じた臨床心理士等）
- ※指導担当者に対する継続的な研修の実施、経験豊富な指導者による他施設への巡回指導、施設間事例検討、外部専門家による継続的な助言・指導等により、指導担当者の知識や指導技術の向上に努めている。

指導方法/ 頻度等

- グループワーク及び個別に取り組む課題を中心とし、必要に応じカウンセリングその他の個別対応を行う。
- 1単元100分、週1回又は2回、標準実施期間：4～9か月
- ※再犯リスク、問題性の程度等に応じて、**高密度**（9か月）・**中密度**（7か月）・**低密度**（4か月）のいずれかのプログラムを実施
- ※知的能力に制約がある者：「**調整プログラム**」（本科プログラムの内容をイラスト等の視覚情報を効果的に取り入れたもの）
- ※刑期が短い等の者：「**集中プログラム**」（本科プログラムの内容を効率的かつ効果的に理解できるよう中心的指導内容を集中させたもの）



刑事施設における特別改善指導「性犯罪再犯防止指導」の本科プログラム

項目 (標準単元数)	方法	指導内容	高密度	中密度	低密度
オリエンテーション (1～2)	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・指導の構造、実施目的について理解させる。 ・性犯罪につながる問題性を助長するおそれがある行動について説明し、自己規制するよう方向付ける。 ・対象者の不安の軽減を図る。 			
準備プログラム (4) ※1単元 60分	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・受講の心構えを養い、参加の動機付けを高めさせる。 	必修	必修	—
本科 本科プログラムの中核的な科目					
第1科 自己統制 (30) (凝縮版は17)	グループワーク 個別課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事件につながった要因について幅広く検討し、特定させる。 ・事件につながった要因が再発することを防ぐための介入計画（自己統制計画）を作成させる。 ・効果的な介入に必要なスキルを身に付けさせる。 	必修	必修	必修 (凝縮版)
第2科 認知の歪みと変容方法 (13)	グループワーク 個別課題	<ul style="list-style-type: none"> ・認知が行動に与える影響について理解させる。 ・偏った認知を修正し、適応的な思考スタイルを身に付けさせる。 ・認知の再構成の過程を自己統制計画に組み込ませる。 	必修	選択	—
第3科 対人関係と親密性 (8)	グループワーク 個別課題	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい対人関係について理解させる。 ・対人関係に係る本人の問題性を改善させ、必要なスキルを身に付けさせる。 	必修	選択	—
第4科 感情統制 (7)	グループワーク 個別課題	<ul style="list-style-type: none"> ・感情が行動に与える影響について理解させる。 ・感情統制の機制を理解させ、必要なスキルを身に付けさせる。 	必修	選択	—
第5科 共感と被害者理解 (7)	グループワーク 個別課題	<ul style="list-style-type: none"> ・他者への共感性を高めさせる。 ・共感性の出現を促す。 	必修	選択	—
メンテナンス (3以上)	個別指導 グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・知識やスキルを復習させ、再犯しない生活を続ける決意を再確認させる。 ・作成した自己統制計画の見直しをさせる。 ・社会内処遇への円滑な導入を図る。 			

改訂

刑事施設における特別改善指導「性犯罪再犯防止指導」の改訂ポイント

第1科は**再発防止計画**（セルフ・マネージメント・プラン）を作成し、**コーピング**（対処方法）を身に付けることを目的として実施する、本科プログラムの**中核的な科目**であり、以下の内容を盛り込んだ改訂を行うもの。

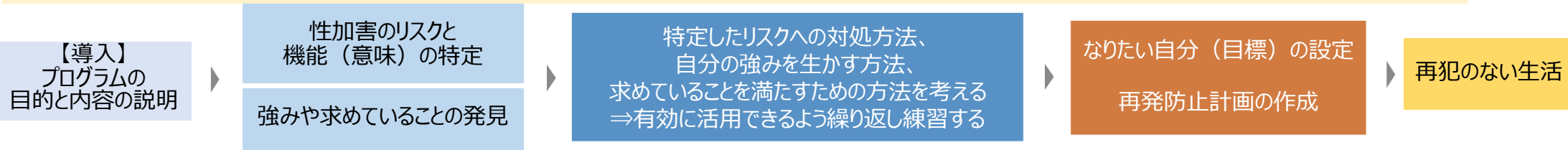
受講者が達成したいと考える目標や受講者の強みをより一層活用したものに改訂

【性犯罪者処遇プログラム検討会報告書】

●再犯を「しない」方法が強調され、対象者の目標とする生活の実現を目指す視点や強みを活用する介入が乏しくなりがち。

【改訂のポイント】

○引き続き、再犯防止の観点から、個々の対象者のリスクやニーズに着目した現行のプログラムを基本としつつ、**受講者が今後達成したいと考える目標や受講者の強みに焦点を当て、前向きな意欲をプログラムに活用**（「なりたい自分」の単元の追加など）



効果検証において、指導の再犯防止効果に統計的な裏付けが得られなかった特定の問題性や特性を有する者にも対応したものに改訂

【性犯罪者処遇プログラム検討会報告書】

●指導効果が上がりにくい対象者群に対する更なる処遇上の工夫が必要
●習慣的行動とみなせる性犯罪をじゃっ起した者や小児に対する性加害を行った者等に対する特性等を踏まえた効果的な介入方法の検討
⇒衝動をコントロールする力が弱い者や性的ファンタジーが犯罪行動に強く関連している者に対する指導の充実

【改訂ポイント】

○習慣的性行動への対応としてサイクル・モデルの導入

・習慣的行動とみなされる性犯罪の理解に適しているサイクル・モデルを導入し、性加害に進む道筋・段階をよりわかりやすく分析等できるよう改訂

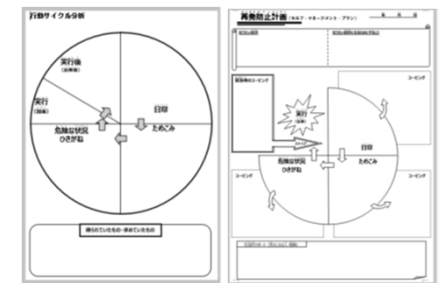
○衝動のコントロールに関連するメタ認知等の知見を元に、単元を追加

・衝動に気づき、その対処方法を学び、早期から練習を促す「セルフ・モニタリングと緊急時のコーピング」の単元を追加

・衝動をコントロールする力が弱い者等に対して、リスクが高まる状況における対処方法について、現在の生活の中で起きる状況を題材として、体験的理解を促す練習をより多く行う等の工夫（マインドフルネス、日記など）を追加

○性的ファンタジーに関連する心理教育と対処方法を学ぶ内容を追加

・性犯罪を促進する性的ファンタジーの機能等に関する心理教育を追加
・上記衝動への対処方法を含めて性的ファンタジーとの付き合い方に関する情報を追加し、早期から対処方法を練習できるように改訂



行動サイクル分析と再発防止計画の様式

《メタ認知》
自分が認知していることを認知すること。
《セルフ・モニタリング》
考えや感情、身体感覚、行動等を自分でモニター（観察）すること。
《マインドフルネス》
今この瞬間に注意を向けている状態のこと。認知や行動のとりわれを和らげるための様々な取組を指すこともある。マインドフルネスによって、考えや気持ちのとりわれが和らぎ、とりわれのままに行動することが減るとされる。

※引き続き、必要な科目を随時、更新・改訂を行っていく予定 5

保護観察所における性犯罪再犯防止プログラムの概要

対象

- 本件処分の罪名に、強制わいせつ（刑法第176条）、強姦等（刑法第177条）、準強制わいせつ・準強姦等（刑法第178条）、監護者わいせつ及び監護者性交等（刑法第179条）、強制わいせつ等致死傷（刑法第181条）又は強盗・強姦等及び同致死（刑法第241条）が含まれる者（未遂を含む。）
- 本件処分の罪名のいかんにかかわらず、犯罪の原因・動機が性的欲求に基づく者（下着盗、住居侵入等）

仮釈放者

再発防止計画の作成

刑事施設におけるプログラムの受講

保護観察付一部猶予者

保護観察付全部猶予者
(注1)

保護観察処分少年
(注1、2)

少年院仮退院者
(注2)

保護観察開始

メンテナンスプログラム

：問題性に応じて定められた頻度で定期的に面接し実施

- 再発防止計画の点検・見直し（注3）
- セルフチェックシート（注3）
- 緊急時の指導等（注3）コアプログラム受講者のみ

導入プログラム

- プログラムの目的や概要の説明
- コアプログラムに対する動機づけ
- 問題と強みのアセスメント

コアプログラム

：おおむね2週間に1セッションずつ、全5セッションで構成

- 認知行動療法に基づく指導
 - Aセッション 性加害のプロセス
 - Bセッション 性加害につながる認知
 - Cセッション コーピング
 - Dセッション 被害者の実情を理解する
 - Eセッション 二度と性加害をしないために
- 再発防止計画の作成

特定の問題性等を有する者への指導等

：共通の指導のみでは対応困難な以下の対象者について、その特性等を踏まえた指導を実施

性加害が嗜癖化している対象者

知的に制約がある対象者等

小児に対する性加害を行った対象者等

刑事施設又は保護観察所のプログラム受講歴がある対象者

保護観察終了

対象者の家族

家族プログラム：家族の心身の状況等を踏まえ、実施の有無を検討

- 家族として必要な知識の付与
- 家族のサポート

- 性加害のプロセス
- 性犯罪再犯防止プログラムの内容
- 家族自身のセルフケア

コアプログラム～中心となる指導内容～

性犯罪に当たる行為に結び付くおそれのある認知の偏り及び自己統制力の不足等の自己の問題性について理解させるとともに、再び性犯罪に当たる行為をしないようにするための具体的な方法を習得することを目的とした全5課程から構成される。

ワークブックの構成

課程	内容
導入	プログラムの受講に当たって
	プログラムの目的や概要を説明し、自分の事件当時の状況、これからの目標などを確認します。
コアプログラム	性加害のプロセス
	A 性加害を起こすときの認知、行動、気持ち、身体の状態をふりかえり、自分の性加害のパターンなどについて考えます。
	性加害につながる認知
	B 性加害につながりやすい特有の認知があること、認知を選びなおす方法について学びます。
	コーピング
	C 日常生活で「うまくいかない」ときにどのように対処すればよいかを考えます。
	被害者の実情を理解する
	D 性加害が被害者に及ぼす被害の実情について学び、被害者に対する認知のクセなどを改めて考えます。
	二度と性加害をしないために
	E 性加害をしないとともに、なりたい自分になるための「再発防止計画」をまとめます。

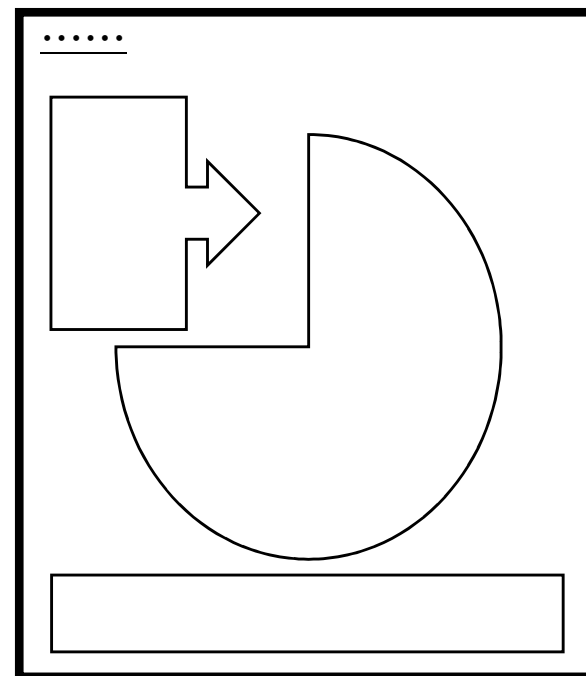
各回、指定された日時に保護観察所において個別又は集団でプログラムを実施。



「コーピング」は「対処方法」のことです。

コアプログラムを通じて・・・

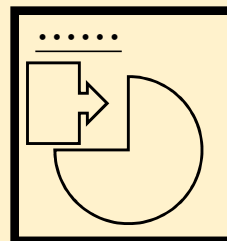
再発防止計画を作成



メンテナンスプログラムを通じて・・・

より実効性のあるものにするため

再発防止計画を 点検・見直し



メンテナンスプログラム

上記の課程を終えた後も、保護観察官や保護司の定期的な面接により、ワークブックで学んだことを復習するほか、再発防止計画の点検・見直しを行います。

メンテナンスプログラム～コアプログラム終了後のリスク管理と効果的な介入の仕組み～

- ☞ 再犯リスクの程度に応じて定められた程度で定期的に面接し実施
- ☞ 通常の生活指導に加え、再犯リスクの程度ごとに以下の指導を実施（※はコアプログラム受講者のみ）

↑再犯リスクの変化に応じ、処遇を強化・緩和↓

◆高リスク

●高リスクの者（コアプログラム受講者のおよそ6割）は、コアプログラム終了後1年以上セルフチェックシートにより毎月フォローアップを行う。

○保護観察官及び保護司による面接時に以下の指導を実施
再発防止計画の点検・見直し※ / セルフチェックシート※

◆中リスク

○保護観察官及び保護司による面接時に以下の指導を実施
再発防止計画の点検・見直し※

◆低リスク

○保護観察官及び保護司による面接時に以下の指導を実施
再発防止計画の点検・見直し※

再犯リスクの程度を踏まえた処遇

再犯の兆候の把握と対応

再犯の兆候を把握（毎月実施）

- ・保護司による保護観察経過報告書
- ・セルフチェックシート（高リスクの者）
- ・保護観察官による定期的な面接

保護司が再犯の兆候を確認した場合は、その時点で保護観察所に連絡

左記の情報を元に、再犯の兆候を把握

面接ないし必要な措置の実施を検討

セルフチェックシート

- ☞ 事件から離れた生活を送るための取組の点検
- ☞ 本人の問題や強みを把握

セルフチェックシート



取組は次の4つの領域から構成
「認知・性的な興味関心」 「問題への対処」
「対人関係」 「新たな生活」

保護観察開始

保護観察終了

セルフチェックシート

「再発防止計画」が二度と性加害しないための取組をまとめたものであるのに対し、セルフチェックシートは性加害から離れた生活を送るための取組を4つの領域にまとめたもの。毎月のできた取組を視覚化することで本人の自己肯定感を高め、動機づけを高めることも目的としている。

性加害から離れた生活を送るための取組

4つの領域

- 認知・性的な興味関心
- 問題への対処
- 対人関係
- 新たな生活



＼できた取組の視覚化／

のうち本人が取り組んだことで当てはまるものにチェックを付けます。

チェックが付いていないにチェックを付けるための取組を記載します。

本人の悩みや心配事を記載します。

セルフチェックシート

年 月 日()

1 今月の生活を振り返り、当てはまる□にチェックを付けてみましょう。

それから、それぞれの領域について最もよくできた場合を5点、最もできなかった場合を1点として点数を付けてみましょう。また、他にも取り組んでいることがあれば教えてください。



認知・性的な興味関心

- 認知のクセが出てきたとき、そのことに気づくことができている。
- 認知のクセが出てきたとき、その認知にひきずられず、他の認知を選ぶ取組をしている。
- 性的な欲求をコントロールしようと努力している。
- アダルトメディアを視聴するときは、現実とは異なる部分があることを意識している。
-

問題への対処

- 自分が抱えやすい問題を理解している。
- 問題が起きたときに備え、いくつかのコーピング（対処方法）を準備している。
- 問題が起きたとき、コーピングを実践している。
- 問題が起きたとき、イライラしたり、落ち込んだりなど大きく動揺することが少ない。
-

対人関係

- 相手の立場を考えて行動している。
- 自分の考え・気持ちを相手に伝えられている。
- 日常生活の中で、「会話」をする相手がいる。
- 自分の「大切なこと」を話せる相手がいる。
-

新たな生活

- 仕事や学校、自分で決めた取組に熱心に取り組んでいる。
- 事件につながる生活習慣と距離を置いている。
- なりたい自分に向けて日々努力している。
- 再発防止計画を意識して生活している。
-

2 チェックが付いていない取組にチェックを付けるためには、どんな取組が必要か考えてみましょう。

3 悩み事や心配事があれば教えてください。

セルフチェックシートはこれで終了です。お疲れさまでした。

4つの領域の取組状況を表すレーダーチャート



＼できた取組の視覚化／

各領域それぞれについて、最もできた場合を5点、最もできなかった場合を1点としてレーダーチャートを作成します。

本人の

強み

に加え、

問題や課題

も把握



再犯防止に向けた
フォローアップ